

日本独文学会  
第73回総会（臨時）  
秋季研究発表会

2018年9月29日（土）・30日（日）

第1日 午前10時より

第2日 午前10時より

会場：名古屋大学東山キャンパス 全学教育棟

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

e-mail: tagung2018nagoya@jgg.jp

参加費：1,500円（学生、常勤職のない会員は1,000円）

日本独文学会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-34-6 南大塚エースビル603

Tel./Fax 03 - 5950 - 1147

メールフォーム：<http://www.jgg.jp/mailform/buero/>

## プログラム

第1日 9月29日 (土)

開会の挨拶 (10:00~10:05)

A会場 (C13教室)

西川智之

臨時総会 (10:05~12:00)

A会場 (C13教室)

1. 会長挨拶
2. 議長嘱任

清野 智昭

議事 1. 社団法人の設立について  
議事 2. 会則の改正について  
会員意見開陳

招待講演 (13:00~14:00)

A会場 (C13教室)

ヨハネス・フリート氏 (フランクフルト大学教授)

Prof. Dr. Dr. h.c. Johannes Fried (Goethe-Universität Frankfurt am Main)

Aufstieg aus dem Untergang

シンポジウム I (14:30~17:30)

A 会場 (C13 教室)

第一次世界大戦の諸相—個と全体の視点から

**Aspekte des Ersten Weltkrieges - aus der Perspektive des Individuums und der Gesellschaft**

司会：山本順子

1. ジンメル演説からみるドイツアイデンティティとフランス—『ドイツの内的変化』を中心に 齊藤 公輔
2. 破局・愛・救済—マイリンクは黙示録に何を見たか 松浦 翔子
3. ムーゼルと第一次世界大戦—編集者、作家、軍人としての視点から 前田 織絵
4. 第一次世界大戦期ドイツにおける戦争犠牲者援護—寡婦への支援を中心に 北村 陽子
5. インフレーションと無カ—ヒトラー擁立へと向かう大衆の心理 樋口 恵

シンポジウム II (14:30~17:30)

B 会場 (C15 教室)

ドイツ・ミステリを読む・観る — インターカルチュラルリティとインターメディアリティの観点から

**Interkulturalität und Intermedialität im deutschen Krimi**

司会：Oliver Mayer, 長澤 崇雄

1. 埋蔵される屍体—ヤーコプ・アルユーニ「カヤンカヤ5部作」について 長澤 崇雄
2. Ermittlungen im Ausland - Inspektor Takeda in Hamburg und Kommissar Ahlweg in Tokyo Oliver Mayer
3. Intertextuelle Spurensuche im Tatort: Zwei Folgen aus München zwischen Japan, Hollywood und einem realen Mordfall Stefan Buchenberger
4. ドイツにおける推理小説のテレビドラマ化—最近の作品を中心としたアダプテーションの事例研究 横山 香

口頭発表：文学 I (14:30~17:05)

C 会場 (C23 教室)

司会：山口 庸子、糸井川 修

1. 衣服の交換、命の更新—J・ビーダーマン『殉教者フィレモン』について  
橋本 由紀子
2. ワーグナー博士とホムンクルス—『ファウスト』第二部第二幕と第二次科学  
革命  
相馬 尚之
3. 『感傷主義の勝利』に見るゲーテの庭園観—エリジウムと冥府の統合とヴェ  
ルリッツ庭園  
伊東 麻衣
4. ヴァンパイアと「目」のモチーフ—ホフマンの『不気味な訪問客』に見る  
マグネティスムス  
森口 大地

### シンポジウム III (14:30~17:30)

#### 感情：表現と操作

#### Gefühle: Von der Entstehung bis zur Manipulation

#### D 会場 (C25 教室)

司会：中村 靖子

1. 感情起動のプログラム—神経科学的方法論を参照して  
中村 靖子
2. 消えゆく感情の擁護者—ゾフィー・フォン・ラ・ロッシュの『スイス旅行日  
記』の文脈と解釈  
大林 侑平
3. 感情の自己統御—教養市民たちの試み  
森田 直子
4. Wertewandel und Gefühlskonflikt - Zum Verhältnis von soziokultureller Prägung und  
Selbstachtung in Fontanes „Cécile“.  
Hans-Michael Schlarb
5. 山岳映画・山岳小説に見る恐怖感情と自己認識  
中川 拓哉

### 口頭発表：文学 II (14:30~17:05)

#### E 会場 (C33 教室)

司会：藤井 たぎる、林田 雄二

1. シュテファン・ツヴァイクの小説技法と精神分析  
籠 碧
2. 構成的イロニー再考—新版ムージル全集における『特性のない男』の編集上  
の問題とカカーニエン構想について  
桂 元嗣
3. 測量士 K.のパースペクティブ再考—フランツ・カフカの「遠近法」について  
庄司 知記
4. 「兵士的」倫理の解剖—エルンスト・ユンガー『鋼鉄の嵐の中で』における  
男性同盟的気質について  
稲葉 瑛志

### 口頭発表：語学 (14:30~17:45)

## F 会場 (C35 教室)

司会：納谷 昌宏、人見 明宏

1. テキストから見える地域的特性—『ハイジ』におけるスイス語法を例に  
大喜 祐太
2. 空間的解釈から派生される時間的解釈—durch を伴う移動の不変化詞動詞を例に  
高橋 美穂
3. ドイツ語から見た西ゲルマン語形容詞の語形変化—階層表示、平行表示、シ  
ンタグマ表示  
清水 誠
4. ドイツ語付加疑問の考察—対話相手の発話に対する反応を中心に—  
木村 英莉子
5. 中高ドイツ語における有接尾辞形容詞からの動詞形成  
黒田 享

## ブース発表 I (14:30~16:00)

(ブース発表は途中での出入り自由です)

## G 会場 (C21 教室)

ゲーム的要素を取り入れた参加型授業の試み  
村元 麻衣

## ブース発表 II (14:30~16:00)

(ブース発表は途中での出入り自由です)

## H 会場 (C22 教室)

Universitärer Fachunterricht „Didaktik“ auf Deutsch am Ende der Grundstufe

Carsten Waychert

## ポスター発表(14:30~16:00)

(ポスターは期間中を通じて掲出されています)

## I 会場 (C32 教室)

外国語学習に対する動機づけを高めるための学習活動の試み  
今井田 亜弓

コミュニカティブな教科書を使用するドイツ語学習者が感じる学習効果—質問  
紙調査とインタビュー調査結果のテキストマイニングによる分析

梶浦 直子

懇親会 (18:00~20:00)

会場 名古屋大学生協南部食堂

会費 一般会費 5,000 円

学生・非常勤会費 3,000 円

第2日 9月30日 (日)

シンポジウム IV (10:00~13:00)

国民国家と「村物語」— 19世紀後半のドイツ語圏文学およびイタリア文学をめぐる地理的想像力

**Nationalstaaten und „Dorfgeschichten“. Geographische Imaginationen der deutschsprachigen und italienischen Literatur im späten 19. Jahrhundert**

A会場 (C13 教室)

司会：七字 眞明

1. 「鉄道沿いの村」への帰郷—ベルトルト・アウエルバッハの「村物語」あるいは「美化」の閉域 西尾 宇広
2. 帝国とモラヴィアの二つの「家」—マリー・フォン・エーブナー＝エッセンバッハ『ボジェナ』における忠実な「女中」 麻生 陽子
3. スイス、ポーランド、イタリア—ゴットフリート・ケラー『馬子にも衣装』における共生形態の模索 磯崎 康太郎
4. 地方の現実を「標準語」で自然に語る—ジョヴァンニ・ヴェルガ『マラヴォリア家の人々』の表現技法 霜田 洋祐

シンポジウム V (10:00~13:00)

ロマン派における「遊戯／劇 (Spiel)」の理念とその表現

**Die Idee des Spiels und deren Darstellung in der deutschen Romantik**

B会場 (C15 教室)

司会：岡本 和子

1. 「神も遊戯するのではないか？」—ノヴァーリスにおけるシラーの遊戯概念の受容 高橋 優
2. 絵画芸術として並ぶ「断章集」—フリードリヒ・シュレーゲルによる〈遊戯〉の実践として 二藤 拓人

3. ロマン派による喜劇の試みとその射程—クレメンス・ブレンターノ『ポンセ・デ・レオン』をめぐって 岡本 和子
4. 近代的主体の崩壊と再構成される場としての遊戯空間—E.T.A.ホフマンの『ブランビラ姫』をめぐって 土屋 京子
5. 「民衆とは遊び場であった」—Spiel 概念の変容とアイヒェンドルフの Volk 観 須藤 秀平

口頭発表：文学 III (10:00~12:35)

C 会場 (C23 教室)

司会：Marcus Conrad、林久博

1. Thomas Bernhard in der Schule - Ein Machtkampf zwischen Schule und Literatur  
Atsushi Imai
2. Hinduistisches Gedankengut in Goethes Wilhelm Meisters Wanderjahre - das Wesen der Makarie  
Evelyn Zraggen
3. Der Einsiedler als Vorbild eines Gläubigen. Zum rein erbaulichen Element in Grimmelshausens „Simplicissimus Teutsch“.  
Yuya Morishita
4. Frühe Filmschaffende als weltpolitische Impulsgeber in Neuerscheinungen der deutschsprachigen Erzählliteratur  
Andreas Wistoff

シンポジウム VI (10:00~13:00)

時事劇と寓意劇のあいだ—Rieser 時代から Wälterlin 時代のチューリヒ劇場  
Zwischen Zeitstück und Parabel—Das Schauspielhaus Zürich in der Rieser- und  
Wälterlin-Ära

D 会場 (C25 教室)

司会：葉柳 和則

1. Los von Berlin? チューリヒ劇場とベルリン演劇 市川 明
2. 『月は沈みぬ』 チューリヒ上演のインパクト—ドイツ語版台本をてがかりに  
葉柳 和則
3. アルカディアとしてのスイス 中村 靖子
4. 寓意劇としての『聖書に曰く』—ヴェルターリン時代のデュレンマット  
増本 浩子
5. 意味に抗う寓意劇—マックス・フリッシュ『ビーダーマンと放火犯たち』  
松鶴 功記

口頭発表：文学 IV (10:00～11:15) / 文化・社会 (11:20～12:35)

E 会場 (C33 教室)

司会：山本 淑雄、大塚 直

1. 青と白の露仏同盟—カフカの断片『独身者ブルームフェルト』とく東西ユダヤ人のタベ> 林寄 伸二
2. 第二次世界大戦中のドイツ軍兵士の読書について 竹岡 健一
3. 侮蔑と辱め—カネッティ『群集と権力』における「インフレーションと群集」について 古矢 晋一
4. ライプニッツの王子教育の提言における演劇教育の導入について 山崎 明日香

口頭発表：ドイツ語教育 (10:00～12:35)

F 会場 (C35 教室)

司会：太田 達也、梶浦 直子

1. Was sollen die Studierenden im Grundstudium lernen? – Überzeugungen (Beliefs) von Deutschlehrenden an japanischen Universitäten Elvira Bachmaier
2. 日本人ドイツ語学習者作文コーパスを使用した表現選好傾向抽出の試み 磯部 美穂、円谷 友英
3. Meditation - Einsatzmöglichkeiten und Erfahrungen im Fremdsprachenunterricht Luisa Zeilhofer
4. 留学期間における学習者のドイツ語習得を定動詞の位置から考える：縦断的調査の結果より 星井 牧子

ポスター発表

(ポスターは期間中を通じて掲出されています)

I 会場 (C32 教室)

閉会の挨拶 (13:05～13:10)

A 会場 (C13 教室)

田村 建一

研究発表会期間中、上記のプログラムに加えて、書店・出版社等による書籍展示が行われます。(書籍展示会場：C11, C12)